

平成28年度金沢大学学校教育学類附属学校園連携GP  
(附属学校園連携GP) 活動成果報告書

取組名称 (全角20字以内)	基本運動獲得のための運動プログラムの開発		
	発達段階に応じた動作・運動能力の習得をめざし12年間を見通した運動プログラムづくり		
取組学校等	特別支援学校		
連携学校・学類	学校教育学類	取組期間	平成28年4月～平成30年3月 (3年0ヶ月)
	附属幼稚園		
ふりがな	つるお ちあき	所属校園名	特別支援学校
実施担当責任者	鶴尾 千亜紀	及び職名	教諭
電話番号	076-263-5551		
e-mailアドレス	chiaki-t@staff.kanazawa-u.ac.jp		

## 1. 取組の活動内容と成果

※取組の具体的な実施内容と成果について、当初設定した目的・趣旨・期待される教育効果に照らし、1ページ程度で分かりやすく記述してください。必要に応じ、図表等を用いても構いません。

※成果物等がある場合は、この報告書とあわせて提出してください。

本取組の目的の「小学部から高等部まで12年間を通して取り組める」「基礎体力向上、基本運動の獲得」「本校児童生徒の課題を改善」「知的障害を持った児童生徒の発達段階に応じた楽しくわかりやすい」運動プログラム作りを行うために、以下の講習会、研修会の実施と実践を行った。

### 【実施内容】

#### 〈研修会〉

#### 自立活動研修会①

「子どもたちに必要な身体の動きと運動経験」

講師 石川県リハビリテーションセンター 理学療法士 片田圭一氏

#### 自立活動研修会②

「教育現場における作業療法士のしてん（視点・始点・支点）」

講師 石川県リハビリテーションセンター 作業療法士 寺田佳世氏

#### ラダートレーニング研修会・実技研修会

「足元からの健康づくり」

講師 石川県立大学 教授 宮口和義氏

※ 学内共同実施教員、金沢大学学生、連携実施校（幼稚園）職員も研修会に参加

〈講習会〉

Gボールの特性を活かすコミュニケーションプログラムin金沢に参加 高等部教員2名

〈授業実践〉

小学部・・ミュージック・ケア、ラダートレーニング

中学部・・体力・運動能力テストの実施、ラダートレーニング

高等部・・体力・運動能力テストの実施、ラダートレーニング

【成果】

- ・小学部では、ミュージック・ケアに取り組み音楽の特性の一部を利用して子供の持っている力を発揮させ、運動への意欲や心身の発達を促した。
- ・中学部、高等部では生徒の体力・運動能力テストを行い生徒の実態や共通する課題などを把握し共通理解することが出来た。
- ・作業療法士、理学療法士を迎えての研修会では、本校の生徒だけでなく、現在の子供たちが抱えている課題に対して教育的視点に医療的視点が加わり、運動を行う時に必要となる知識を深めたり再確認したりできる機会となった。実践を行う上で、姿勢・運動・活動での動きひとつひとつが正しい方法でできて初めて効果があることを理論的に学ぶことができた。
- ・ラダー運動研修会には、本校教員・学内実施教員・連携実施教員・金沢大学学生の参加がありそれぞれが、自分の知識や経験を増やし今後の授業実践に生かせる研修会となった。
- ・11月より各学部でラダートレーニングの実践を行った。ラダー運動の動きは、知的障害を持った児童生徒でも模倣しやすい、運動課題がスモールステップで取り組めるので達成感や充実感が得られ成功体験が積める、運動量を確保できる、などの効果があった。

## 2. 平成28年度の実施計画に対する達成度の自己評価

評価（いずれかに○）	評価の理由
a. 達成できた <b>○ b. おおむね達成できた</b> c. あまり達成できなかった d. ほとんど達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度予定していた計画をほぼ実施することができた。</li> <li>・GPの取り組みを通して教育課程や教育内容の見直しや改善を行うことができた。</li> <li>・ラダーを共通の教材として児童生徒にわかりやすく達成感のあるトレーニングプログラムの開発をめざし、研修や講習会を行い教員の学びを深める機会を設けることができた。</li> </ul>

### 3. 今後の目標・展望

※今年度の実績を踏まえ、今後の目標・展望を500字程度で記述してください。

- ・小学部では、ひきつづきミュージック・ケアの実践を行う。音楽を聴いてからだを動かしたり、リズムに合わせて身体表現をしたりしてのびのびと体を動かし心身の諸機能を高めることを目指す。
- ・中学部、高等部では次年度も生徒の体力・運動能力テストを行い、結果を比較したり、分析したりする。また体力テストのデータをわかりやすく生徒に提示し、生徒の運動に関する興味や関心を向上させる。
- ・生徒の実態や課題、成果を分析する際に医療的な視点として作業療法士、理学療法士と連携する。
- ・各学部で引き続きラダートレーニングの実践を行う。ラダートレーニングは体育の中心的な活動ではなく準備運動（15分程度）で継続して行う。段階的に動きを複雑化したり、運動量を増やしたりする。次年度は、各学部の担当で小学部の実践に焦点をあて、成果や課題の分析を行うなどの見直しをする。その際、県立大学の宮口先生や連携実施教員の横山先生に助言をいただく。
- ・連携実施教員と調整し各学部の体育の授業で金沢大学の学校教育学類保健体育専修の学生と一緒に活動する授業を設定する。
- ・本校の体育の教員が附属幼稚園でラダーの授業実践を年三回の予定で行う。
- ・Gボールの研修に参加する。